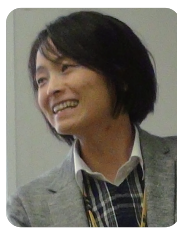


情報整理の「観点」を意識させる指導

「リクエストに応じて説明しよう」

一年 P 32 「情報整理のレッスン比較・分類」、P 34 「情報を整理して書こう」



福井大学
教育学部准教授
はぎなか なおみ
萩中奈穂美

適切に情報を整理する

「観点」の設定

この実践のキーワードは「観点」。情報を目の前にしたときの「目の付け所」「切り取り方」である。比較、分類、順序付けといった情報整理のスキルは「観点」が提示されればそれほど難しいことではない。しかし、実生活では自分で観点を設定して整理することになる。観点は、何でもいいというわけではない。目的や相手や説明する事柄の特性に合った「適切な」観点であることが重要である。

本稿では、「情報整理のレッスン 比較・分類」（以下「レッスン」）で、観点を思いつく力を含めた情報整理のスキルを学び、そこで習得した知識・技能を「情報を整理して書こう」の中で「リクエストに応じて説明しよう」という言語活動として展開しながら、確かな力に結び付けていく実

践を紹介する。

「レッスン」の扱い方の工夫

「レッスン」の「[整理の方法②] 分類する」では、「学校図書館への要望」アンケート結果を三つに分類している。分類すること自体も大切だが、これはどんな観点による分類か、この観点を分類するよさは何かを問いかける。また、他にはどんな観点で分類できるかを問いかければ、「実行性」「要望の多さ」等の観点が挙がるかもしれない。

下段の「問題」の扱いも工夫したい。場面状況↓雑多な情報↓観点設定↓情報の整理の順に進めるとすれば、場面状況には「問題2」を活用して観点を着想させ、「問題1」の情報を整理するという扱いもあり得る。その際、なぜその観点が重要かを交流するようにする。

このように「レッスン」では、情報の機械的な

■指導のポイント

本単元の中でも「情報の整理」に関する指導のポイントを四点示す。

その1 必然性のある言語活動にする

第一時では、級友の得意分野を知り合うという実際の意義を言語活動に加えて導入とする。座席表などに級友に説明してもらいたいことを自由に書かせる。その人自身の人物紹介ではなく、その人がよく知っていて「説明」できそうな題材（所属する部活動、趣味、出身小学校、よく聴く音楽、学習のしかた等）にする。教師はこれを集約し、題材のボリュームや内容的価値を判断する。その上で、「君にはこういうリクエストがあったよ」と一人一題材を提示する。配慮としてリクエスト主もその数も明かさず、教師がリクエストするケースがあってもよい。

このように自分が紹介したいのではなく、相手が知りたいことを説明するような仕掛けにするのは、「説明」の本質が「問い」に答えることであるためで、最後に説明を読み合う必然性が生まれる。リクエストに答える書き手も意欲をもちやすい言語活動である。またこうした仕掛けによって、相手はその対象の何について知りたいかを想定しながら情報を収集することや、適切

な観点を設定して情報を整理することにも本気で取り組むことができるだろう。

その2 情報は取「捨」選択する

第二時の情報収集は、各自で行う。ここでいう情報には、自分がかもともっている知識（曖昧な場合は確認が必要なことも指導する）だけではなく、インターネットや書籍等から新たに得た情報が含まれるが、収集よりも整理に重点を置くために、本実践では前者を中心とした。情報を整理するには一定量の情報が揃っていないければならず、説明の題材に、当人がよく知っている事柄を取り上げるのはそのためもある。細かな情報も一つにつき一枚の付箋に書き出し、それらを表やベン図等で整理していく。このとき大切なのが整理の「観点」で、次時での交流の中心にしたい。

さて、観点を設けて整理していくと不要な情報があることにも気づく。ところが、生徒はこの「捨てる」思考操作が苦手である。捨てるほど多くの情報を準備できないことや集めたものは全部使うべきだと思いついていることが原因だと考えられる。しかし、明解な文章には扱う情報の精選が不可欠である。「選ぶ」とは一方で「捨てる」ことである。それでも捨てることに抵抗が

整理にとどまらず、誰が何のために整理するのか、整理しようとしているのは、どのような（量や質）情報かなどによって、情報整理（取捨選択も含む）の観点が決まることに気づかせる学習を行う。

リクエストに応じて説明しよう

■学習目標

- ・適切な観点を設けて情報を整理する。
- ・目的に応じてわかりやすい説明文を書く。

■指導計画（全五時間）

- 第一時** 学習のめあてと流れをつかむ。説明してほしいことをリクエストし合う。
- 第二時** 情報を収集し、目的や相手に合わせて情報を整理する。（自ら観点を設定）
- 第三時** 情報を整理した結果（表やベン図等）をもとに、ペアで評価、助言し合う。
- 第四時** 構成を考え、説明文を書く。
- 第五時** 文章を読み合い、学習を振り返る。

あれば、「念のために取っておく」コーナーを作って移動させるとよい。情報過多の社会を生きていく上で必要な力として、この機会に、情報の必要性や確かさを基準に情報を取捨選択することを指導したい。なお、情報の収集・整理はタブレット端末を用いれば次時の交流もしやすくなる。

その3 情報整理の「観点」を問い合う

第三時では、ペアで整理した結果を見ながら助言し合う。この際「どういう観点で整理したの？」「なぜその観点なの？」といった問いかけ、「読み手としては〇〇が知りたいからこういう観点で整理してはどうか」といった助言をするように指導したい。また、全体に広めたい整理のしかたについては、積極的に共有することも効果的である。

その4 情報整理の力を次につなげる

第五時での学びのまとめも、「情報の整理」に焦点化して行う。その際には、説明文を書く学習に「レッスン」でどのような学びを活用できたかを意識させることが大切である。また、「学習を広げる」の「情報整理の方法」（二年 P 271）を案内して、今後どのような表現場面で身に付けた力が生かせそうか考えさせたい。